

With



ウィズセンター情報誌

- 特集 ウィズフェスティバル2009

岡山県男女共同参画社会づくり表彰

記念講演 石坂 啓さん (漫画家)

講演 奥山 和弘さん (静岡県立掛川西高等学校 副校長)

登録団体主催事業

ビデオメッセージ「明日へ！」取材から

- インフォメーション



おかもと あきよし
岡本 明美さん (美作市)

平成20年度 絵てがみコンテスト ウィズ賞受賞作品

ウィズ
フェスティバル
2009
開催

テーマ 参画社会で あなたもかわる 明日が変わる

岡山県男女共同参画推進月間(11月)の行事として、11月13日から15日までの3日間、ウィズセンターを会場に開催されました。



「ウィズフェスティバル 2009」PRイベント

開催が間近となった10月24日(土)、NTTクレドビルふれあい広場においてPRイベントがにぎやかに行われました。

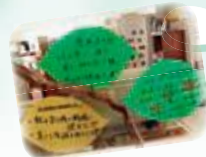


太伯なでしこ連による迫力あふれるうらじゃ踊りが繰り広げられる中、実行委員が中心となり街行く人々にチラシを配り、ウィズフェスティバル2009をPRしました。



「ウィズフェスティバル 2009」オープニングセレモニー

11月13日(金) 実行委員扮する御夫婦が寸劇を披露してくす球を割り、フェスティバルの開幕を華やかに演出しました。



ウィズセンターのエントランスには皆様からの男女共同参画社会実現に向けたメッセージが書かれた葉をたくさん茂らせた「参画の樹」が大きく育っています。

実行委員長あいさつ

(11月14日 記念イベントあいさつより)

皆さま、ようこそ、ウィズフェスティバル2009へ！
実行委員一同、大いに歓迎し、心から感謝申し上げます。
さて、開会冒頭に上映しましたビデオメッセージ「明日へ！」(※)のナレーションにもありましたように、男女共同参画社会基本法が制定されて10年、社会は少しずつではありますが、変わってきています。ビデオで紹介させていただいた女性市長や女性の杜氏という職業分野だけではなく、何より日常の光景が変わりました。
保育園の送り迎えをする男性、晴れた日、布団を干す男性、町内会長を務める女性、まだまだ挙げればたくさんありますが、男女共同参画への理解が深まり、意識は着実に変わってきています。
当たり前のように考えられていた不合理なことを、立ち止まり、考え直し、辛い思いをしている人の声を聴くことで、今より生きやすい社会を作っていく、性別・年齢・立場などの違いを越えて、誰もが認め合い輝ける社会、そんな男女共同参画社会が実現すると、世の中はきっと平和な社会になるはず。私たちに何ができ

るか、何をなすべきか、問いかけながら、今より希望の持てる社会を次の世代にリレーしていきたいと思っております。

明日を作っていくのは私たちです。県民の皆さまにとって、このフェスティバルがさらに男女共同参画社会の必要性を考える機会としていただけることを願っております。

さて、6月初旬、実行委員会をたち上げましてから、20名の委員が様々な意見を出し合い取り組み、本日を迎えることができました。ご来賓の皆さま、この後表彰をお受けになる皆様、そして、お忙しい中をここにお越しくださった皆さま方、多くの方に支えられ、今年もフェスティバルを開催することができました。重ねて感謝の言葉をのべさせていただきます、実行委員一同よりのご挨拶、お礼の言葉とさせていただきます。

本日のご参加、まことにありがとうございます。

ウィズフェスティバル2009実行委員会
実行委員長 坂本 朝子

(※) P9にビデオメッセージを誌上でご紹介しています。

平成21年度 岡山県男女共同参画社会づくり表彰 (県知事表彰)

男女共同参画社会づくりに積極的に取り組み、その功績が顕著であり、今後とも活躍が期待される個人及び事業者をたたえる表彰式が、平成21年11月14日にきらめきプラザで行われ、石井県知事から表彰状と記念品が贈られました。



●個人の部

(五十音順・敬称略)

氏名	住所地	役職
馬屋原美和子	赤磐市	セミナーあかいはつ葉会顧問
国司 幸子	矢掛町	やかげ女性連絡協議会運営委員
須藤 鶴子	和気町	和気町男女共同参画推進委員会会長
津尾 恵子	矢掛町	やかげ女性連絡協議会顧問
戸田 房子	真庭市	参画まにわ書記

氏名	住所地	役職
福山 哲郎	倉敷市	倉敷市男女共同参画審議会委員
藤村 侑久子	高梁市	たかはしWithフォーラム運営副委員長
的場 真介	岡山市	岡山市男女共同参画専門委員会副委員長
三宅 定子	玉野市	玉野市男女共同参画推進審議会委員
吉森 輝子	備前市	備前市人権教育推進委員会委員

●事業者の部

株式会社 英田エンジニアリング (美作市)

(株)英田エンジニアリングでは、冷間ロール成形機・造管ライン、無人駐車場・駐輪場管理システム及び専用機等の設計・製造・販売を行っています。

これまで、女性の技術職の採用を積極的に行う方針の下に、女性の機械設計の技術者2名を採用するとともに、今後は、電気設計の技術者の採用も予定しています。

また、男女関係なく実力のある者を適材適所に配置し、部長級、課長級の女性管理職を誕生させるなど、女性の能力活用及び職域拡大にも取り組んでいます。



▲コンピュータを使い、機械設計を行います。



さらに、法定の1年を超える1年6か月の育児休業制度や子どもの小学校入学時まで短時間勤務を選択できる制度を設けているほか、育児等の理由により退職した場合でも、優先的に復職を認めるなど、家庭生活と職業生活の両立支援にも取り組んでいます。

◀美作市三保原に本社、赤磐市や美咲町などにも事業所があります。

ウィズフェスティバル2009を記念して、大ベストセラーとなったエッセイ集『赤ちゃんが来た』の著者 石坂啓さんにお話をさせていただきました。

講演

「家族も仕事も！ 人生をまるごと楽しむ方法」

講師

いしざか
石坂けい
啓さん(漫画家)

手塚治虫にあこがれて

石坂啓という名前はペンネームなのですが、よく男の人と間違えられてしまいます。初めて雑誌に漫画が載ったとき、顔写真を載せてくれたのですが、他の漫画家さんから「やっぱり男だったんですか」と言われたときにはわりと悲しかったものです。

私は小さい頃から漫画家になりたいと思っていたのですが、中学・高校のころ、手塚治虫先生の漫画にぞっこん惚れ込んで何が何でも先生のところに行きたいと思い、その一念だけで上京できてアシスタントになれたのかなと思います。1年くらいアシスタントをしてマンガの枠線を引いたり、指定箇所を黒く塗りつぶす「ベタ」をやらせてもらいました。ちょうどその頃、西武ライオンズのマスコットキャラクターレオくんを手塚先生が描かれていました。あのレオくんの耳の先少し黒いんですが、あのベタは私が塗ったんです。レオくんを見たら思い出してくれたら嬉しいです。

男の子と女の子

今日、私は武蔵野市というところから来ています。うちの子どもが小学校に入ったとき、同じ町内に子どもが10人いることに気がつきました。子どもを見ていろいろ面白かったのですが、「男の子らしく」「女の子のくせに」と言ったことはありません。男の子でもめそめそしても「かわいいじゃん」なんて好きでしたし、女の子がやんちゃだったり、すごく威張っていたりするのでも「面白いじゃん」と思ったりするのです。ただ、女の



子は非常に早い段階から、大人の部分が入っている気がします。2、3歳の女の子でも、「大人になったとき、こういう表情を見せるかもしれない」という顔をします。大人の事

情を話したら伝わる相手です。男の子はこどもまるだしで、邪気が無く少年っぽいけれど思春期になっていきなり大人の顔が割り込んでくる気がします。女の子は着々と大人になりつつあるのですが、男の子はいきなり女の子より背丈が伸びます。その成長の度合いや激変に、精神的にうまく自分でコントロールがつかないのではないかと思うことがありました。

私の友人に女医さんがいます。彼女はいまだに子どもが小さかった頃のことを思い出すと腹が立って眠れなくなると思います。子どもが熱を出したとき慌てて保育園へ行くのはなぜ私なのか、帰りにスーパーによって夕食の支度をするのはなぜ私なのかと。彼女は顕微鏡をのぞく度、女性の染色体をX型という言い方をすると男性はそのひとかけらが形のないY染色体という言い方をしますが、そのひとかけらの中に、「もしかしたら炊事、掃除、育児の遺伝子がはいっているのじゃないか」と思ったというのです。私はお医者さんでも結構あんぼんたんなことを考えるものだと思いました。でも子どもが生まれたとき彼女の話思い出しました。もしかしたら男の人というのは、決定的に足りない何かがあるのかもしれない。そう考えておくと、あまり腹も立たずにすむのです。

子どもに魅力のある大人の社会を

ここで少し、子どもが学校へ行っていたころの話をして。今、子どもが学校にいこうようになって手放して喜んでばかりの何の心配もない親御さんはあまりいないと思います。子どもの事件・事故について、学校と家を抜いて考えることはできないのです。大人の側の問題が子どもに反映されて、症状として出てくるのではないかと思うのです。いじめは最低で卑劣な汚い遊びだけど、それが面白い楽しいと思えるくらい子どもの日常がつまらない。大人が、「つまらないことはするな」と言える、もっと豊かな世界、もっと違った場所があるということを見せているだろうか。大人になることに何の魅力も感

じないとしたら、子どもの閉塞感はどんなものか。

保育園の園長先生が、子どもの卒園式のスピーチで「これからはお母さんは自分の幸せを見つけて生きていてください。子どもは自分の幸せは自分で見つけます。そういう力をもともと子どもは持っています」とおっしゃいました。「家族みんなで力を合わせて」とか「子どものため人生を」と言われがちでしたが、そうではなく、まず自分のスタンス、感度、自分の幸せ、自分はこれが嫌だというような感性を磨いていくことが大事だろうなと思います。

子どもが大人を見て「けっこうカッコいいじゃん。大人になるのも悪くないな」、そういうふうに思えるよう



な大人社会を、皆さんと連携して声を掛け合って作っていったらいいなと思います。

2009年11月15日(日) 開催

講演会

実行委員会自主企画事業として、ジェンダーと男女共同参画社会について明解なお話で定評のある奥山和弘さんにお話をさせていただきました。



講演

「男だてら」に「女泣き」

講師

おくやま かずひろ

奥山 和弘さん (静岡県立掛川西高等学校 副校長)

「男だてら」に「女泣き」

今日のタイトルを最初に説明しておきます。「男だてら」に「女泣き」、こういう日本語はありません。「女だてら」はあるけれど「男だてら」はないのです。「男泣き」は辞書に載っていますが、「女泣き」はありません。なぜでしょうか。

「男泣き」を辞書で引いてみると「めったに泣かないはずの男が、たまりかねて泣くこと」と書いてあります。つまり、男は泣かないものだという枠組みがあるのです。逆に女は泣いて当たり前と思っているから言葉は要らないのです。

「男だてら」について、私は国語の教員ですから、これを品詞分解したのです。「男」という名詞に「だてら」という接尾語が付いているのです。「何とかだてら」というのは身分、地位、資格を表す名詞に付いて「何々の分際で」「何々のくせに」という意味を表します。この「何とかだてら」という幾つかの言葉は、日本の歴史の中で消えて、「女だてら」だけが残っているのが現状です。この言葉だけを頼りに言えば、依然として女性は女性としての身分、地位、資格に縛られているのです。

そういう意味で「男だてら」に「女泣き」というタイ

トルは、私たちの身の回りの言葉にも枠組みが実はありましたよというしゃれたタイトルなのです。

「男女共同参画社会をめぐる3つの誤解」

「男女共同参画社会」とはどういうものを正確に定義することは難しく、私自身も正確な定義ははっきりいってできません。困るのは、例えば昔の教え子に駅でばったりと会ったとします。「ちょっと男女共同参画の講演に行くのだよ」と言ったとします。その教え子が、「何、それ？」と聞くことが考えられます。そのときに、一言でわかりやすく言うと男女共同参画社会というのはこういう社会だよと、教えてあげられる言葉がほしいなという、教育者としての心があるわけです。ポイントを押さえる言葉がほしいなと作ったのがこれです。「性別にかかわらず、多様な活動が選択できる社会だよ」と、そんなふうにも5秒で説明ができると思うのです。

ただ、「男女共同参画社会」を取り巻く誤解というのが世の中にあるので整理をしてみました。

最初に「女も働け」「男も家事や育児をしろ」という社会だという誤解です。これは「命令」であり「選択」に反します。女性も働きたいと思ったら、働くことがで

きる。男性も仕事をしながら育児がやりたいなどと思ったら、それが可能になる社会、「選べる」ということがポイントです。

二つ目は、「性差の解消」、「中性化」を目指すという誤解。男女の性の違いはもちろんあり、これは尊重しなくてははいけません。でも、「男はこの仕事」「女はこの仕事」というように、仕事や役割が性の違いとストレートに結び付くものではないのです。男女にかかわりなく仕事や役割を「選べる」ということなのです。

三つ目、「男女共同参画社会」は「女性の味方」という誤解。男性にとっても、女性にとっても、もっと豊かな働き方や生活があるはずで、半分は男性の味方なのです。女性も男性も、今とは違ったライフスタイルがあり得るのではないかという新しい価値観を提案しているわけです。



「ジェンダーをめぐる4つの留意点」

女性は妊娠や出産の機能をもつ可能性があるという「生物学的な違い」が「拡大解釈」されて「女は育児や家事に向いているというイメージ」、その裏返しとして「男は仕事に向いているというイメージ」が作られています。このイメージこそが「固定的性別役割分担」であったと思います。また、「男性の握力の平均値は女性

の平均値より高い」というような「平均値や傾向としては認められる違い」というのがあります。それを「一般化」して、「男は強い」「女はやさしい=弱い」という、いわゆる「男らしさ」「女らしさ」の核となるようなイメージが作られているのではないかと、私は分析しています。

このような「男とはこういうもの」「女とはこういうもの」という枠組みを、「ジェンダー」と呼ぶのです。その「ジェンダーをめぐる留意点」を四つ挙げます。

一つ目は「男女共同参画社会とのつながりを意識することが大切」なのです。ジェンダーによって、自由な活動の選択ができなくなり、男女共同参画推進を阻害する場合に、見つめ直すことが必要です。

二つ目は「プライベートな好みとは別次元の問題」です。あくまでも公的な場面での仕事の役割分担とか社会づくりというような問題なのであって、個人的な好みの話ではないのです。

三つ目は「多様な選択肢の一つとして性別役割分担はあり得る」ということ。つまり、パートナーとの相談のもとで、専業主婦になることも共働きをすることも多様な選択肢の一つとして、それぞれが尊重されるべきということです。

四つ目「男女の特性を生かした男女共同参画は論理矛盾」ということです。「特性」とは「それだけが持っている特別な性質」です。「女性の特性とは何ですか」として聞くと驚くべき答えが返ってきます。「繊細さ」であるとか、「思いやり」であるとか、「消費者の視点」であるようなことを答えます。男性も消費者の視点を持っているよ、繊細さを持っている男性もいるよ、と言いたくなります。とすると、これは「女性の特性」ではないのです。「特性」は、男と女を枠組みに入れたイメージです。ですから、男女共同参画は、むしろ「特性」から自由になることをこそ目指しているのです。

朗読劇

11月15日(日)

モモタロー・ノー・リターン

主催：ウィズフェスティバル2009実行委員会



ウィズフェスティバル2009実行委員会の自主企画事業として奥山和弘さんの講演に先立ち奥山さん作の朗読劇「モモタロー・ノー・リターン」を上演しました。

おなじみの昔話を題材にしたお話ですが、おばあさんとおじいさんがある日役割を交代したことから物語が展開します。お話を通じて、男女共同参画について考えることができました。

❖ 講演会

11月13日(金)

「家庭における介護の方法」

主催：岡山県訪問看護ステーション連絡協議会

医療・介護の動向として、ご家庭で療養される方が増加しています。ご家庭での介護の方法を知ることにより、介護するご家族、また療養者の方が、より安心で安楽に過ごすことができるようになります。少しでも、無理のない介護の一助になることを期待し、この講演会を企画しました。

江田純子先生により、具体的な介護「着替え・体の動かし方・おむつ交換の方法」の方法およびコツを実践しながら、丁寧に講演いただきました。

・具体的に実践できとてもよかった。どうしてそうしないといけないのか、という理論も交えて教えていただき、よかった。日々の生活で活かせることもたくさんあった。

・介護のコツを体得することは、相手も自分も気持ちと体の負担を軽くすることができること、それを実技で教えて頂き、とてもよかった等のご感想をいただきました。

少人数での会であったため、講師と受講者がわきあいあいと直接対話もでき、とても楽しく得るものも多い2時間だったと思います。



ご家庭での療養生活がより安心・安楽となり、心身とも負担の軽減に繋がると幸いです。

❖ 体験報告

11月13日(金)

「生ごみを減らして、持続可能な町をつくりたい」

主催：女性会議 岡山県本部

竹のおがくずに、消化酵素（豚の腸から抽出）アースラブを混ぜ合わせて作った生ごみ処理器を紹介し、生ごみを減らす事を提案しました。



岡山市がごみの有料化を始めた事から、ごみの減量に関心を持った会員が生ごみ処理器“くたくんAタイプ”を使い、環境問題として取り組んだ経過を説明しました。

次に利用者から、「はじめはうまく使いこなせなかったが、説明書を見て工夫しながら使いこなせる様になり、生ごみを減らす事が出来た」「野菜や花にも堆肥として使い肥料も買わなくなった」などの体験報告をおこないました。

その後、現物を使って生ごみの投入、かき混ぜ方などを使用前の新しいものと、使用中の処理器を見て、実際に手で触れて比較しながら体験してもらいました。

最後に具体的な質問、意見交換をおこないました。地域で取り組みたいと団体での参加の方、“くたくん”を使用する目的で参加した人、使っている方からのアドバイスなどもあり活発な意見交換が出来ました。自治体（瀬戸内市）の取り組みも進んでいることも報告されました。

❖ 講演会・シンポジウム

11月13日(金)

レイプは“魂の殺人”です

～事件後あなたらしく生きるために～

主催：(社) 被害者サポートセンターおかやま (VSCO)

シンポジウムでは、河原理子さん・被害者本人・VSCO支援員が高原勝哉コーディネーターのもと、活発な意見交換を行いました。

遮蔽をした被害者本人から、被害後の早期からの支援こそが事件後あなたらしく生きる礎となり、あなたらしく生きる力となったと声をつまらせての体験報告に、参加者から、性被害の大きさを実感し、共感を深めたとの意見が多く寄せられました。

被害者本人が公の場で話すことは、全国でも3人目という非常に勇気のいる事で敬意を表します。

又、今回は初めての“命と魂のメッセージ”展には、被害者本人のメッセージが寄せられました。

被害者にとって思いを話す・書くと言うことは、事件当時の苦しみがよくみえります。被害の重さを感じるとともにメッセージ展の意義を実感しました。

“性犯罪被害”はまさに“魂の殺人”で人権問題です。一人一人の正しい理解こそが、社会の性犯罪被害者に対する意識を変える原点になると信じています。

被害者の悲しみ・苦しみを公言できる社会を目指したいものです。

「悪いのは被害者ではなく、加害者です」



❖ ワークショップ

11月13日(金)

「クリスマスリースづくりとユニセフミニ講座」

主催：(財) 日本ユニセフ協会岡山県支部

今年もポスター展示「クリスマスリースをつくろ！」で参加させていただきました。

多田治子さんを講師にお迎えして25名の方に参加していただきました。寄付していただいた材料を使って、参加者の方それぞれ個性的で素敵なリースが出来上がり大変喜んでいただきました。

また、ユニセフミニ講座も行いました。ビデオ「いのちの水ー西アフリカ・マリからの報告ー」・ネパールで子供たちが水汲みに使用している水がめ・マリアアから子供や妊婦を守る日本で開発された殺虫剤付きの蚊帳・子供の死因の1つである脱水症状の治療に用いられる経口補水塩



(ORS) を実際に見ていただきユニセフの行っている支援についてお話をしました。

参加費はすべて日本ユニセフ協会に募金させていただきました。これからも日本ユニセフ協会岡山県支部の活動にふるってご参加ください。

パネル展示

「ウィズフェスティバル2009」開催期間中、ウィズセンター内にて登録団体の活動を紹介するパネルが展示されました。いずれも力作ぞろいでも内容も目を引くものばかりでした。



【出展団体】

- イーブくらしきネットワーク
- NPO法人おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ
- 岡山県交通安全母の会連合会
- 岡山県退職女性教職員会
- 岡山県婦人問題懇話会
- 岡山市婦人防火クラブ連絡協議会
- おかやま女性国際交流会
- (財) 岡山県母子寡婦福祉連合会
- (財) 日本ユニセフ協会岡山県支部
- (社) 大学女性協会岡山支部
- スペシャルオリンピックス日本・岡山
- 世界女性会議岡山連絡会

❖ ワークショップ

11月13日(金)

自力整体でしなやか人生をゲット!
～自分の体の本音を聞いてアンチエイジング～

主催：岡山県女性のバス13期会

自力整体についての説明と指導を受けながら、参加者がそれぞれ自力整体を体験し、体験後、質疑応答を行いました。



最初は固かった体も体験後はスッキリ、効果を実感していただきました。



❖ ワークショップ

11月13日(金)

男らしく? 女らしく? 自分らしく!

主催：CAPおかやま

暴力の起こる要因のひとつであるジェンダー（社会的・文化的性差）について、それぞれの体験を基に話し合うなかで、問題点やこれからの展望について考えました。

参加者はジェンダーについての認識も高く、話し合うなかで、子どもたちの話を聞く、考え方や生き方を尊重することが性別にとらわれないで、その人らしさを生きていく大きな力となることを確認しました。



❖ 講演

11月13日(金)

「メルハバ! (こんにちは) アリとさやかの国際結婚」

主催：おかやま女性国際交流会

メルハバ(こんにちは)で始まった会は、アリ田邊ソイルさんの妻のさやかさんがつわりでけっせきということになりましたが、お慶びに参加者は拍手で祝福しました。講演会はピンチヒッターで来てくださった岡山トルコ文化協会のアリ・ビンギョルさんがプロジェクターでトルコの映像を映し出し、会場はトルコ一色になりました。ファシリテーターの問いかけにソイルさんが、出身地カッパドキアでのさやかさんとの出会いについて、そして国際結婚の楽しさ難しさについて、またブドウ作りを通しての地域の方々との触れ合いについて話し、最後に来年生まれてくるお子さんを含めた家族への思いについて熱く語りました。ギュレギュレ(さようなら)で締めくくりました。



❖ 講演

11月13日(金)

「電話の向こうに見える子どもたち」～チャイルドラインおかやまを実施して～

主催：特定非営利活動法人 子ども劇場岡山県センター

チャイルドラインを実施して見てきた子どもの姿、代表の西崎宏美さんに講演いただき、その後こうした子どもたちの状況についてグループ討議を行い、大人が考えていかなければならないことなど話し合いました。

● 参加者の声

子どもの心に寄り添い、子ども自身が問題解決をすることを支援する。子どもの声をまとめ社会に発信する。「私の子ども」から「私たちの子どもたち」という視点こそが大切だと再確認しました。



チャイルドラインに掛けてくる子どもたちが特別ではなく、社会の変化とともに子どもの現状は変わってきていることをしっかり受け止めなければならぬと感じました。

● 最後に

子どもは力をもっています。生き伸びる芽を持っています。チャイルドラインで子どもの声を聴くことは、子どもの力を信じてそこに寄り添うことです。

登録団体交流会

11月15日(日)

ウィズセンター登録団体の中から20団体が参加し、なごやかに交流しました。ウィズセンター所長のあいさつにつづき、大和田信也主演のビデオ「もっと素敵にハーモニー」を鑑賞の後、ビデオの内容について、グループごとに話し合い理解を深めました。



食事と懇談会で交流を深めた後、恒例のウィズソングの合唱で締めくくりました。

❖ 講演

11月13日(金)

地域に活かそう!「魔法のつえ」
～女性差別撤廃条約30年のこれまでとこれから～

主催：世界女性会議岡山連絡会

講師の越堂静子さん(WWN代表)から「CEDAWにてミラクルを」のテーマで、女性差別撤廃条約30年の概要や国連女性差別撤廃委員会での日本政府第6次報告書についてのジュネーブ及びニューヨークにおいてのロビーイング、国連からの勧告などについてパワーポイントで詳しく報告していただきました。

また、JNNCの国連での活動を、NHK-BSで放映された「女性差別撤廃条約ー日本の男女格差は?ー」のDVD映像で拝見しました。

参加者からも多くの質問、意見が出たり、講師と個別に情報を得ていました。



❖ 講演と対談

11月14日(土)

母性保護論争はなぜ起きた?
『晶子 VS らいてう』

主催：イースト岡山女性ネットワーク&14期岡山県女性のバス

同時代に女性解放を目指した与謝野晶子、平塚らいてうがその考え方の違いから対立した“女性保護論争”をとり上げ、現代の女性の生き方を考えた。

講演では晶子とらいてう二人の境遇・職業観・結婚などの対比や“母性”という言葉が日本に導入された歴史を紹介しました。



対談では、今も女性の抱える問題が提起され、講師お二人の体験にもとづくお話会場は大いに沸きました。

❖ 講演

11月14日(土)

「母」たちの戦争と平和 ～戦争を知らないわたしとあなたに～

主催：「慰安婦」問題を考える女たちの会

源淳子さんは女性問題研究者。「慰安婦」問題や女人禁制、家父長制の問題にも長年取り組んでこられました。

1920年代生まれの女性4人の聞き取り調査から、戦前・戦中は「軍国少女」だった彼女たちが、戦後を「転換点」として平和への活動を担うようになった軌跡を紹介した近著は、戦争を知らない世代への深いメッセージとなっています。

また、大学の講義で出会う学生とのやり取りを紹介しながら、戦前・戦中・戦後の歴史をフェミニズムの視点から明解に語ってくださり、改めて歴史を学ぶことの大切さを痛感させられました。

荒木タミ子さんの言葉「女がだまってきたから、今ふきだした男女問題ははてなく根深い。……女はだまっていたはいけないのだ」が胸にさざります。

男性の参加も多く、グループ別の自由討論が盛り上がりました。

若い学生さんも参加して、老若男女で意見交換できたのが何よりの収穫でした。



ウィズフェスティバル2009
実行委員



(50音順 敬称略)

氏名	所属団体等
池田 公子	おかやま女性国際交流会
大熊 雅子	おかやま女性国際交流会
大月 基史	特定非営利活動法人さんかくナビ
片山千恵子	フォーラム2000まび
金谷 安子	14期岡山県女性のバス
神原かおる	H19 男女共同参画セミナー修了者
木道 洋子	岡山県生活学校連絡協議会
小橋 節子	H19 男女共同参画セミナー修了者
坂本 朝子	イースト岡山女性ネットワーク
土屋 瞳	フォーラム2000まび

氏名	所属団体等
寺井 恵子	イーブくらしきネットワーク
中桐美和子	大学女性協会
仁志 恵子	岡山県生活学校連絡協議会
西平 幸代	I(アイ)女性会議岡山県本部
萩尾 寛江	よりよい人間関係を学ぶ心理学(C-Tくらぶ)

氏名	所属団体等
藤村侑久子	たかはしwithフォーラム
万代 寿代	おかやま女性国際交流会
三宅 義親	特定非営利活動法人さんかくナビ
森田 稔	特定非営利活動法人さんかくナビ
山本 敬子	おかやまエコマインドネットワーク

ウィズフェスティバル2009 ビデオメッセージ「明日へ！」 取材から

ウィズフェスティバル2009実行委員会ではメッセージビデオ作成のために県内3人の方から男女共同参画社会へ向けてのメッセージをいただきました。要約してご紹介します。

・女性杜氏 辻 麻衣子さん (真庭市)

岡山県内では初めての女性杜氏ということですが、全国的にも珍しく、私が入った頃は10人もいない世界でした。力仕事の部分も受け持つので、苦勞もありますが、酒造りをがんばっています。昔から酒造りは子どもを育てるようなものだといわれるのですが、第1子を出産してからそれが実感として分かりました。産休明けに蔵の中へ入ったとき、お酒に対する愛情がわいてきて、そういう意味では女性ならではの感覚だと思います。夫のサポートや家族の協力があって、自分の仕事ができることに感謝しています。新しい分野へ挑戦する人々には「何事も成せばなる」の気持ちを持って挑戦して欲しいと思います。



・育児休業を取得 大島 望さん (瀬戸内市)

妻と同じ会社で同じ仕事をしていましたので、結婚当初から二人で育児をやっていきたいと思っていました。それを理解して、協力してくれた同僚や会社に感謝したいと思っています。実際に育児に関わってみて、やはり大変でした。自分の食事は二の次になり、一ヶ月で体重が4キロ減りました。世の中のお母さんたちの大変さが良く分かりました。育休の4ヶ月間は子どものことを知ることができ、娘への愛情も深まり、親として成長できた貴重な期間でした。育児休業を取るのはハードルが高いと思われるかも知れませんが、子どもやお母さんのことを理解できるチャンスだと思います。機会があれば、ぜひ取得してみたいと思います。



・県内初の女性市長 伊東 香織さん (倉敷市)

いま、私は行政分野で仕事をしていますが、政治、経済、文化などいろいろな分野に女性が今まで以上に参画すべきだと思います。

市役所においても、課長主幹や主幹といったスタッフ職に女性がつくことが多いのですが、責任のあるラインの分野にもついてもらい、みんなの意見をしっかりとまとめて、部や課を統括していけるような市役所になればと思っています。

男女共同参画実現へ向けてということですが、男女に関わらず、自分の思いをしっかりと発言し、自分を相手に良く知ってもらい、そして相手の意見も聞き、相手をよく知ることが参画社会につながっていくと思います。

●ウイズカレッジ 津山さん・さん塾 受講者募集

「ジェンダーの視点からみた歴史のなかの産むこと・育てること」～津山地域を中心に～

日 時：平成22年2月13日(土) 13:30～15:00
 内 容：津山男女共同参画センター
 「さん・さん」会議室
 (津山市新魚町17番地 アルネ・津山5階)
 講 師：^{さわやま みかこ} 沢山 美果子さん(岡山大学大学院客員研究員)
 参加費：無料
 募集人数：50人

申込方法：
 (1)申込期間 平成22年2月6日(土)まで
 (2)申込方法 電話、FAX、Eメールで ①住所 ②氏名
 ③電話番号をお知らせください。
 (3)申 込 先 津山男女共同参画センター「さん・さん」
 〒708-8520 津山市新魚町17番地
 アルネ・津山5階
 TEL 0868-31-2533 / FAX 0868-31-2534
 Eメール sun-sun@city.tsuyama.okayama.jp
 (4)そ の 他 託児あり(無料・要予約)

これからの映画のつどい ご案内

ウイズセンターでは下記のとおり「映画のつどい」を開催します。どうぞ、ご期待ください!



2月18日(木) 13:30～
 一裁判員制度をよく知るために一

『裁判員制度』(58分)
 (企画・制作:法務省)

『評 議』(62分)
 (企画・制作:最高裁判所)

出演：中村雅俊、西村雅彦、
 加藤夏希、渋谷哲平、
 金子貴俊、川崎麻世ほか
 (以上「裁判員制度」)

出演：中村俊介、大河内奈々子
 榎木孝明、藤田弓子、
 小林稔侍、酒井敏也ほか
 (以上「評議」)

裁判員制度がスタートして、1年を迎えようとしています。新聞などでは各地で開かれた裁判員裁判の様子が伝えられていますが、改めて、裁判員制度とは?をテーマに2本の映画を上映します。

3月19日(金) 13:30～
 3月20日(土) 13:30～

2日間のうち、
 ご都合の良い方にご参加ください。

『おくりびと』(131分)
 (監督:滝田洋二郎 / 音楽:久石譲)

出演：本木雅弘、広末涼子、
 山崎努、余貴美子、
 杉本哲太、峰岸徹、
 吉行和子、笹野高史ほか

第81回アカデミー賞外国語映画賞、第32回日本アカデミー賞最優秀賞を受賞した話題作。「納棺師」の所作を見事に演じた本木雅弘、また、山崎努のいぶし銀の演技もみどころ。封切り以来大ヒットロングランとなったこの作品を残念ながら、見逃していたという方、また、2回目、3回目の方もどうぞご参加ください。

主催：岡山県男女共同参画推進センター 〒700-0807 岡山市北区南方2丁目13-1 きらめきプラザ6階
 TEL 086-235-3307 FAX 086-235-3306

ウイズライブラリー

～心にひびく物語～

図書



『食堂かたつむり』

・小川 糸 著
 ・ポプラ社 (2008年)

恋と声を失った女性が故郷に戻り、実家の離れでメニューのない食堂を始め。ある噂とともに店は評判になり…。おいしい料理と人のやさしさが心とおなかを温めてくれる物語。

図書



『女の庭』

・鹿島田真希 著
 ・河出書房新社 (2009年)

居心地の悪さを感じながらも、井戸端会議に参加しているありふれた主婦。隣に越してきた外国人女性の存在を気にすることで、自分を見つめはじめる…。やがて、静かな奇跡が起こる。

DVD



『フラガール』

・日本
 ・2006年 (120分)

昭和40年、閉鎖の迫る炭鉱の町を救うため、北国をハワイに変えるという起死回生のプロジェクト。フラダンスに取り組む炭鉱娘と教えるダンサー、娘たちの家族、町の人たちの悲喜こもごもを描いた感動作。

DVD



『タイタンズを忘れない』

・アメリカ
 ・2000年 (114分)

公民権運動によって人種の壁が取り払われようとしていた1971年のアメリカ。白人の高校と黒人の高校が統合され、フットボールチームの「タイタンズ」も統合される。俳優デンゼル・ワシントンの迫真の演技で、感動と涙を呼んだ真実のストーリー。



日本最大の文化の祭典・国民文化祭が岡山にやってきます！

晴れの国おかやま 文化回廊

あっ晴れ！おかやま国文祭

※国民文化祭・おかやま2010 平成22年10月30日(土)～11月7日(日)

2010年秋、岡山県内全市町村で文化イベントが開催されます。

昭和61年から全国持ちまわりで開催されている「国民文化祭」は、**文化の国体**とも言われています！全国各地からたくさんのアーティストや文化団体が集まって、日頃の文化活動を発表し、交流を深めます。



国民文化祭マスコットキャラクター「ももっち」



路面電車「ももっち号」がPR中

音楽、舞踊、演劇、美術、文芸などの芸術文化から、伝統文化や生活文化、さらには芸能や歴史・自然に触れて、ご当地グルメや地酒を味わうなど、**国民文化祭は魅力たっぷり**。観客としてはもちろん、作品の発表者、ステージ出演者として、「国民文化祭」を楽しんでください。

★問い合わせ先

第25回国民文化祭岡山県実行委員会
TEL：086-226-7905

あっ晴れ！おかやま国文祭

検索

ウィズセンターの紹介

男女共同参画社会とは、男女の人権が等しく尊重され、お互いが支えあい、利益も責任も分かちあえる、いわば、女性と男性のイコール・パートナーシップで築き上げるバランスのとれた本当に豊かな社会です。ウィズセンターはこうした男女共同参画社会づくりを推進していくための施設です。

情報提供

- 図書・ビデオの貸出
- 人材情報・各種団体の活動情報の提供
- 男女共同参画に関する資料の閲覧

各種講座

- 男女共同参画に関する各種講座の開催

相談

- 女性の相談員による生活方・家族や夫婦などの悩みの相談
- 弁護士・医師による相談

就業支援

- 就業に役立つ講座の実施
- 就業に関する情報の提供

交流

- 各種団体へ活動・交流の場と機会を提供

広報

- 情報誌の発行（年4回）
- メールマガジンの配信（毎月）



会議室



相談コーナー



サロン

ウィズセンター利用のご案内

開館時間	火～土曜日／9:30～20:00 日曜日／9:30～17:00
休館日	月曜日・祝日・年末年始
相談員による一般相談	火～土曜日（祝日を除く）／9:30～17:00 （受付は16:30まで）
特別相談（予約制）	弁護士による法律相談／原則第2・4金曜日 医師によるこころの相談／原則第1・3金曜日 医師によるからだの相談／原則第1土曜日
電話	086-235-3307（代表） 086-235-3310（一般・特別相談）
ホームページ	http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/danjo/

交通案内

徒歩／
岡山駅前から約15分
タクシー／
岡山駅前から約5分
路線バス／

岡山駅前から [岡電バス] 津高方面・万成方面行「跨線橋東」下車 徒歩約4分
[中鉄バス] 津高方面・一宮方面行「跨線橋東」下車 徒歩約4分
[宇野バス] 赤磐方面行「番町口」下車 徒歩約3分
天満屋バスセンターから
[岡電バス] 三野・妙善寺方面行「番町口」下車 徒歩約3分

※ウィズセンターへお越しの際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。



ウィズセンター「きらめきプラザ」6階
(県総合福祉・ボランティア・NPO会館)

センターへのご意見はご遠慮なくハガキ・FAX・Eメールまたはセンターの提案箱へ

ウィズ冬号 (vol.51)

2010年1月発行

編集・発行／岡山県男女共同参画推進センター（ウィズセンター）
〒700-0807 岡山市北区南方2丁目13-1
きらめきプラザ（県総合福祉・ボランティア・NPO会館）6階
TEL (086) 235-3307(代) FAX (086) 235-3306
Eメール：danjo@pref.okayama.lg.jp

DV防止法に基づく「配偶者暴力相談支援センター」としてDV被害者からの相談や情報提供を行っています。